

# 言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (熊野町立 熊野第三小学校)

- ① 教科等 算数      ② 学年 第4学年
- ③ 単元名 「面積」
- ④ 本時の目標 教室の中にあるものの面積を、ノートのいくつかで考える、または、たてと横の長さを考えて計算することで予想し、確かめていく活動を通して、広さの感覚を豊かにすることができる。
- ⑤ 学習の流れ (9時間目/全12時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 問題を知り、学習課題を設定する。 教室の中にあるものの面積を調べましょう。	・前時までの学習について振り返らせる。	・自分が調べたものの広さについて、ノート of いくつかで考える、または、たてと横の長さを予想して計算で考えるなど、自分が求めた方法を根拠を明らかにしながら、説明している。〔数学的な考え方〕(発言・ノート)
自分の考えた「広さのものさし」を使って、身のまわりのものの広さを求めることができる。		
2 学習の手順を確認する。	・「広さのものさし」とは、ノート of 面積のいくつか分であること、または、その形のたてと横の長さを予想した後に計算することであることを伝える。	
3 児童一人一人が広さ調べを行う。	・予想が立てにくい児童には、側でいくつかを示して見せるなど支援する。	
4 お互いの求め方を交流し合う。	・予想の数値と合わせて、なぜそう予想したかを具体的に説明させていく。 ○テレビの面積は、たてが40cmで横が100cmだと考えました。予想の面積は $40 \times 100 = 4000 \text{ cm}^2$ で、実際の面積は $50 \times 95 = 4750 \text{ cm}^2$ です。 ○机の面積は、ノート6つ分と考えました。予想の面積は $450 \text{ cm}^2 \times 6 = 2700 \text{ cm}^2$ で、実際の面積は、たて×横をして、 $40 \times 60 = 2400 \text{ cm}^2$ です。	
5 練習問題をする。 黒板の面積を調べましょう。	・練習問題をして、「広さのものさし」(量感)を確かにしていく。	
6 本時の学習を振り返る。	・本時の目標に即した振り返りをさせる。	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 面積をどのようにして予想したかを、ノート of いくつかを基にして考える、または、長さを予想して計算して考えるなど、既習事項を活用しながら、根拠を明らかにして説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 面積を求めるための算数的活動時間を十分に確保する。(計算は電卓を活用。)
- 予測、実測、計算、比較の算数的活動をしっかり行わせることで、論理的に思考させ、考えたことを表現したり説明したりさせる。